

2004年5月20日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No. 14

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

八代郡坂本村出身で、今年4月に坂本村名誉村民となられた谷口巳三郎さん(80歳)は、熊本県立農業大学校教官を定年退職後、単身タイ国に渡られ今日まで21年間、農業支援や青少年国際交流活動等に献身的に活躍されておられます。谷口さんの不易(ふえき)の志は、国や時代を超えて受け継がれることでしょう。

タイ国北部のパヤオ県サクロウ村にある「谷口21世紀農場」のスローガンも、心に響く素晴らしい内容ですので紹介します。

『希望があれば瞳は輝く 希望は自ら作るもの 今、君の瞳は輝いているか』

参考資料：八代地域市町村合併協議会だより 第18号

トピックス

- 1 注目される園芸療法、園芸福祉
- 2 合併後2年目を迎えた、あさぎり町社協の取り組み
- 3 障害者と健常者のふれあいの場「タプリエ」を紹介します

お知らせ

「熊本発これからの福祉を考える全国セミナーPART 」のご案内

トピックス

- 1 注目される園芸療法、園芸福祉

5月18日に熊本市のパレアホールで、園芸療法の施設プランナーとして著名なドイツのイルゼ・ツープック氏(1957年生まれ)の女性)を招いた講演会が開催され、園芸療法や園芸福祉に関心のある大勢の方が参加しました。

主催した「丸山ハイランドふれあい農園の会」(会長：小山和作氏)は現在、上益城郡矢部町下名連石の丸山高原において、地元住民、ボランティア及び知的障害者などが広範に参加したふれあい農園作りの事業を通して、知的障害者の自立支援、地元文化の継承及び一般の人に

対するボランティア参加の機会と憩いの場を提供する活動に取り組んでいます。ふれあい農園づくりの様子は昨年9月、熊本日々新聞で「園芸福祉 丸山の挑戦」と題して連載されました。

同会の活動の大きなきっかけとなり、影響を受けているのが、ヨーロッパの先進的な園芸療法の取り組みです。講師のツーパック氏はドイツで造園設計者、アドバイザーとして幅広く活躍されており、特に精神病院の患者や老人保健施設の痴呆症のある高齢者向けの庭園や公園づくりを手がけられており、丸山のメンバーの熱意で今回の講演が実現しました。

ツーパック氏によると、ドイツでも近年、医療や福祉の分野で、自然の一部である庭で活動し健康を回復する園芸療法が注目され、庭園の持つ治療効果や会話・コミュニケーションを生み出す効果が高く評価されており、ここ数年、病院や施設で多くの庭園が新設されているそうです。

<精神科専門病院の庭園の事例>

何もない芝の広場に1年半かけて造った庭園では、自然の効果と仕掛けの効果が非常によく作用し、治療の幅を広げ、生活環境を改善し、病院自体の開放と外部の人との交流が進んだことが紹介されました。

<老人保健施設の庭園の事例>

痴呆患者が施設の中だけを動き回るとは痴呆症状の悪化につながることから、建物に併設して生け垣で囲まれた庭園を造り、庭内には環状型（円形）の道や四季の変遷を感じさせる植物、水のせせらぎ等の仕掛けを用意し、一人で出歩けるようにしてあります。庭が住空間を外に移すだけでなく、様々な活動や他との出会いの場となり、患者の元気の回復と生活の質の向上にも有効であることが紹介されました。

そして、日本でも日本にある植物で日本独自の庭園を作ってもらいたいと結ばれました。

園芸療法、園芸福祉といった言葉そのものがまだ耳新しく、本格的な取り組みはこれからですが、熊本でも知的障害者の社会参加と自立支援に向かって、園芸福祉の新風が丸山高原から吹き始めています。

2 合併後2年目を迎えた、あさぎり町社協の取り組み

昨年4月1日に免田・須恵・深田・上・岡原の中球磨5か町村が合併し、あさぎり町が誕生しました。そして、管内の5町村社協も同日に合併し、あさぎり町社協となりました。「平成の大合併」に伴う県内で最初の新設（対等）合併のケースであったことから、合併後の社協運営や、事業展開の動きが注目されてきました。

基本方針等

合併に際して、あさぎり町社協では「よろこびを実感し、安心して満足できるまち」を基本方針として掲げました。そして、すべての町民が安心して、生き生きと快適に生活できる地域社会を創り、それを支えていける社協を目指した新社協の事業が計画されました。

組織体制

事務局の体制は「本所」と3事業所体制で、旧免田町の総合福祉センターの1階が本所、2階が「免田・須恵・深田事業所」ということで、旧上村のヘルシーランドに「上事業所」、旧岡原村に昨年3月落成したふれあい福祉センターに「岡原事業所」が設置されました。5町村社協が合併しましたが、須恵と深田には社協の事務所は設けず、須恵と深田の事業につきましては旧免田町の「免田・須恵・深田事業所」で対応しています。行政が支所を残していますので、住民の方が相談のため支所を訪れた場合、本所に連絡し、本所の職員が出向き対応することとなっています。

職員構成

あさぎり町の人口は18,000人程度ですが、社協の職員は事務、事業の双方を併せて90名規模（正規職員42名、パート、非常勤職員48名）となっています。旧社協がそれぞれ受託してきた施設管理、温泉、介護保険の居宅介護、通所介護等の事業の他に、ふれあい福祉センターでのデイサービス事業や生活支援ハウス等の事業が加わったことから、同程度の人口規模を有する他の社協と比べて組織や職員規模が大きくなりました。

活動の現状と課題

当初、社協の合併とともに活動領域が広がることから、サービスが低下したり、地域に密着した活動等が後退するのではないかと心配もありましたが、よろず出前相談や法律相談を取り入れた総合相談事業の強化、地域に密着したふれあい生きいきサロンや小地域ネットワーク活動の推進、福祉講座等の開催によるボランティアの養成及び支援などを進め、従来の水準は維持されてきました。

今後の課題

合併後2年目に入った社協では、合併の効果を発揮し、ファミリーサポート事業や父子家庭等当事者の会組織化事業、地域福祉権利擁護事業の推進等への取り組みが予定されています。

あさぎり町社協には今後、住民が主体的に福祉活動に関われるような仕掛け、ボランティア組織の支援、さらに地区社協などの組織化などに積極的に取り組むとともに、様々な分野の団体等と協働して、住民一人ひとりのニーズに対応できる社協活動を進めていくことが求められています。

また、スケールメリットを活かして多様な地域福祉の取り組みを進め、介護保険事業などの事業経営課題に適切に対応していくための役員体制の強化並びに事務局の一層の専門性の向上が求められています。

社協にとって将来ビジョンとなる地域福祉活動計画についても地域住民とともに策定し、具体化していくことが2年目以降の課題であり、5年後、10年後の社協組織、体制をどうするのかを早い段階で検討する必要があります。

社協合併の動き

本年3月31日に上天草4町社協が合併して上天草市社協が誕生しました。法定協議会が設置されている地域のうち、現在13地域(50市町村)で社協独自の合併協議会が設置され、協議が進められています。

3 障害者と健常者のふれあいの場「タブリエ」を紹介します

(株)エブリワンが経営する地域コミュニティースーパー「タブリエ」に、NPO法人アイ・ネットワークくまもと(熊本市)が、障害者の雇用面やコミュニティーサービス面で協働して、サービスを実施しています。

【サービスの内容】

(1) 児童一時預かりサービス

教員、保育士、看護師の有資格者の指導によりケアスタッフ(子育て経験のあるボランティア)を養成し、そのケアスタッフが児童一時預かりを実施しています。その際、ケアスタッフにはボランティア活動保険が加入されます。

依頼者が仕事や通院その他の都合により、児童の一時預かりを希望する場合、事前予約の上、「ナイスハートケアセンター」で児童を預かります。

委託料は1時間300円となっています

(2) 高齢者・障害者・子育てふれあいサロン

地域のお年寄りや障害のある方がいつでも立ち寄り、気軽に過ごし、仲間と語り合う「ふれあいの場」を提供しています。

また、地域のお年寄りのサークルや団体にスペースを提供し、定期的な会合や勉強会、文化教室などを開催しています。

子育て中の両親や親子対象には、イベントやサークル活動を地域の方々と実施しています。

(3) 育児・健康相談

育児や健康、介護についての相談に対応できるケアマネージャー、看護師を相談員としてカウンセリングを実施しています。

毎週月曜・火曜日を「育児健康相談の日」とし、地域の人々やスーパー利用者などから、相談を受けています。

【雇用面での対策】

タブリエでは、身体障害者をレジ係や事務職に雇用。パンや惣菜の製造で、知的障害者の雇用も検討中です。

また、タブリエに隣接する「ナイスハートショップくまもと」には、県内の授産施設等で障害を持つ方々が心を込めて製作した様々な商品が所狭しと並んでいます。ここでは、クリーニングサービス、UD名刺の作成や展示プリントなどの印刷サービス、福祉用具のレンタルなども行っています。

お知らせ

「熊本発これからの福祉を考える全国セミナーPART Ⅰ」のご案内

日 時 : 2004年7月17日(土)12:40~18日(日)15:30

会 場 : メルパルク熊本 メルパルクホール

〒860-8517 熊本県熊本市水道町15-11

TEL:096-355-6311

主 催 : 「熊本発これからの福祉を考えるセミナーpart Ⅰ」実行委員会

参加費 : 5,000円

懇親会費: 6,000円

【主な内容・講師】

宮城県施設解体宣言を語る

・田島良昭(宮城県福祉事業団理事長)

きいてはいよ わがまち自慢の福祉でまちづくり

・須藤文揚(西原村社会福祉協議会地域福祉コーディネーター)

小田勝範(熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班主幹)

施設がまちにやってきた

・小林繁市(伊達市地域生活支援センター所長) 武田和典(きのこ老人保健施設副施設長) 小笠原嘉祐(ピネル記念病院理事長) ほか

実践は縦割りを越えた~全国の先進事例~

・森田真希(鳩の翼代表理事)、渡辺ひろみ(コスモスの家理事長)

内山博之(熊本県健康福祉部少子化対策推進課長)

金崎健太郎(佐賀県企画部総括政策監)、ほか

どうする?社協、どうする?市町村

・森枝敏郎(熊本県環境生活部次長)、平野隆之(日本福祉大学社会福祉学部教授)、ほか

熊本発・みんな一緒で見えてきたばい

・山下順子(とら太の会代表)、本田充郎(熊本県健康福祉部精神保健福祉課主幹)

熊本発・これからの福祉を動かすファイナルセッション

・阿部るり子(銀河ステーション施設長) 川原秀夫(きなっせ代表)

辻哲夫(厚生労働省保険局長) 潮谷義子(熊本県知事) 大熊由紀子(福祉と

医療、現場と政策をつなぐ「えにし」ネット縁結び係・元朝日新聞論説委員)

お問合せ先

「熊本発これからの福祉を考える全国セミナーpart Ⅰ」実行委員会

事務局: 特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)

〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平5-3-18-207

TEL: 022-719-9240 FAX: 022-719-9251 E-mail: clc@clc-japan.com

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 14

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部

福祉のまちづくり課地域福祉企画班へお願いします。

E-mail: fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL:096-383-1185

FAX:096-387-5992